※令和４年度以降入学生用

学校番号	406

令和８年度　地理歴史科

教科	地理歴史	科目	歴史総合	単位数	２単位	年次	３年次
使用教科書	「明解　歴史総合」　（帝国書院）						
副教材等	なし						

１　担当者からのメッセージ（学習方法等）

・歴史の世界的な広がりとその時間軸を感じる。
・歴史的事象に「なぜ」の視点を持つ。
・歴史を背景とした世界の国の諸事情を踏まえ、現在の日本の在り方を考える。
・学習方法等は、初回の授業のガイダンスやその都度指示をします。毎回の授業にしっかりと出席をして聞いておく。

２　学習の到達目標

・学習を通じて、世界全体の歴史的背景、各国の文化の特色などの知識を身につける（知識及び技能）
・現代の諸課題について、近現代史を中心とする歴史と結び付け歴史的観点から考察することができる。（思考力、判断力、表現力等）
・世界の歴史を地理的条件や日本の歴史と関連付けながら理解し、国際社会に主体的に生きる日本国民としての自覚と資質を養うことを目標とする。（学びに向かう力、人間性等）

３　評価の観点及びその趣旨

観点	a:知識・技能	b:思考・判断・表現	c:主体的に学習に取り組む態度
観点の趣旨	各学習単元の諸課題を理解し、その知識を身につけている。	各学習単元の諸課題を見出し、それらを多面的・多角的に考察し、様々な立場から公正に判断をし、学習内容の過程や結果を適切に判断している。	各学習において、積極的に取り組み、授業内においての話を聞く態度や発問への応答ができている。

上に示す観点に基づいて、学習のまとまりごとに評価し、学年末に５段階の評定にまとめます。学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。

※令和４年度以降入学生用

４　学習の活動

学期	単元名	学習内容	単元(題材)の評価規準	評価方法		
				知(a)	思(b)	主(c)
一学期	第一時世界大戦と日本の対応	1.ドイツの挑戦とバルカン半島の緊張 2.総力戦となった第一次世界大戦 3.ロシア革命と対戦の終結	a:国際関係の視点を軸に，第一次世界大戦勃発から終戦までの経緯と，参戦各国の社会の変化について，資料を読み取り，理解している。 b:第一次世界大戦の総力戦体制下において，列強の戦闘員・列強の非戦闘員・植民地や従属地域の人々がそれぞれどのような目的で戦争に協力したのかについて考察し，みずからの言葉で表現している。 c::勢力均衡に基づく国際秩序と大衆の戦争参加が，現代社会に与えた影響と課題について追究しようとしている。	小テスト、定期考査において授業で得た知識が定着しているか。	授業内、定期考査において資料の読み取りや、自分の意見・考えを発表・記入できるか。	準備物 発言 プリント・ノートへの加筆(メモ) プリント・ノート提出
	国際協調と大衆社会の広がり	1.ヴェルサイユ体制の成立 2.東アジアの民族自決の行方 3.中東・インドの民族自決の影響 4.ヨーロッパの復興と大衆の政治参加 5.大衆社会の出現とアメリカの繁栄 6.日本における大衆社会の形成	a:ヴェルサイユ体制によって形成された国際秩序と，国際社会や各国に生じた政治・社会・文化の変化について，資料を読み取り，理解している。 b:新しい国際秩序と大衆社会の特徴について考察し，みずからの言葉で表現している。 c:ヴェルサイユ体制に基づく国際秩序の成立と，20世紀前半における大衆社会の到来が，現代社会に与えた影響と課題について追究しようとしている。	小テスト、定期考査において授業で得た知識が定着しているか。	授業内、定期考査において資料の読み取りや、自分の意見・考えを発表・記入できるか。	準備物 発言 プリント・ノートへの加筆(メモ) プリント・ノート提出

※令和４年度以降入学生用

二学期	日本の行方と第二次世界大戦	1.世界恐慌が与えた影響 2.ファシズムの台頭と拡大 3.政党政治の断絶と満州事変 4.日中戦争の始まり 5.第二次世界大戦の展開 6.戦局の悪化と被害の拡大 7.第二次世界大戦の終結とその惨禍	a:世界恐慌から第二次世界大戦の終戦に至るまでの経緯について，大衆とマスメディアの関わりに着目しながら，資料を読み取り，理解している。 b:ファシズム体制の形成から終戦に至るまで，大衆がなぜ戦争に協力していったのか考察し，みずからの言葉で表現している。 c:世界恐慌後の各国の政治的判断と，大衆の戦争協力が，現代社会に与えた影響と課題について追究しようとしている。	小テスト、定期考査において授業で得た知識が定着しているか。	授業内、定期考査において資料の読み取りや、自分の意見・考えを発表・記入できるか。	準備物 発言 プリント・ノートへの加筆(メモ) プリント・ノート提出
	再出発する世界と日本	1. 戦後の新たな国際秩序 2.冷戦の始まり 3.日本撤退後の東アジア 4.日本の改革と独立の回復	a:冷戦構造の形成と，国連を中心とする平和へ向けた新たな国際秩序について，日本と関連付けながら資料を読み取り，理解している。 b:国際連合を中心に，第二次世界大戦以前と以後の国際秩序を比較することで，戦争の経験が人々に何をもたらしたのかについて考察し，みずからの言葉で表現している。 c:大戦後に形成された冷戦構造と国際連合による平和維持体制が，現代社会に与えた影響と課題について追究しようとしている。	小テスト、定期考査において授業で得た知識が定着しているか。	授業内、定期考査において資料の読み取りや、自分の意見・考えを発表・記入できるか。	準備物 発言 プリント・ノートへの加筆(メモ) プリント・ノート提出
	冷戦で揺れる世界と日本	1.アメリカ・ソ連の緊張緩和 2.冷戦下における日本の復興 3.第三勢力の形成と脱植民地化 4.中東戦争とパレスチナ問題	a:冷戦下の緊張と緩和の経緯と，そのなかでの日本の高度経済成長や，脱植民地化を目指す動きについて，資料を読み取り，理解している。 b:冷戦下の世界と日本の動向について，政治・経済の関連や諸地域間の比較を通して多面的に考察し，みずからの言葉で表現している。 c:冷戦下における各国の動向が，現代社会に与えた影響と課題について追究しようとしている。	小テスト、定期考査において授業で得た知識が定着しているか。	授業内、定期考査において資料の読み取りや、自分の意見・考えを発表・記入できるか。	準備物 発言 プリント・ノートへの加筆(メモ) プリント・ノート提出

※令和４年度以降入学生用

三学期	多極化する世界	1.揺らぐアメリカと先進各国の変化 2.「経済大国」日本の模索 3.経済発展に取り組むアジア・南米諸国 4.イスラーム復興と冷戦への影響	a:冷戦下の1960 年代から 80 年代における各国の選択と経済成長について，資料を読み取り，理解している。 b:各国の選択を比較し，「東アジアの奇跡」が起こった要因や世界史における意義について考察し，みずからの言葉で表現している。 c:冷戦下における各国の政治的・経済的選択が，現代社会に与えた影響と課題について追究しようとしている。	小テスト、定期考査において授業で得た知識が定着しているか。	授業内、定期考査において資料の読み取りや、自分の意見・考えを発表・記入できるか。	準備物 発言 プリント・ノートへの加筆(メモ) プリント・ノート提出

※　表中の観点について　a:知識・技能　b:思考・判断・表現　c:主体的に学習に取り組む態度